

審査経過及び講評

【審査経過】

本市の消防指令システムの中枢を占める消防指令システム設備(平成30年整備)及び消防救急デジタル無線設備(令和元年整備)、並びにその他の機器については更新から年数が経過し老朽化が進んでいる。現在の消防指令システム設備や消防救急デジタル無線設備は採用している技術について改良が必要であり、通信指令業務並びに消防・救急活動を遂行する上で更新が必須となった。また、ICT技術の高度化やICTを取り巻く環境変化を踏まえ、更なる業務効率の向上と安定運用を実現する新たな技術を導入する必要がある。

このため、令和10年4月開庁を目指して整備を進めている「消防本部・福島消防署」新庁舎にあわせて「高機能消防指令センター」を構築することで、大規模災害等の災害に迅速かつ的確に対応できる通信体制を確立するものである。

消防指令システム設備及び消防救急デジタル無線設備について、効率的で操作性に優れた設備を新たに構築するとともに、費用対効果の高い保守体制を含めることで24時間365日安定稼働を担保し、各種災害から市民の生命財産を守る使命を実現するため、業務委託する業者を公募型プロポーザル方式で選定することとした。

本プロポーザルには募集に対して2者から参加表明があり、適格であると確認したうえ、2者より技術提案書の提出を受けた。

第1次審査は、令和8年6月29日に実施し、ヒアリング要請者の選定を行った。審査は会議形式で行い、ヒアリング要請者としての適格性を審議した。その結果、全2者に対してヒアリングを要請することを全会一致で決定した。

第2次審査は、令和8年7月27日にヒアリングを実施し、審査項目として特定テーマを「テーマ1 システム強化」、「テーマ2 移設」、「テーマ3 業務効率化」、「テーマ4 BCP」、「テーマ5 安定稼働」の5項目とし、各者からの技術提案の説明と質疑により、項目ごとに採点を行った。その後、審査委員会を開催し、ヒアリング要請者を匿名のまま採点集計結果を提示し、最優秀者、次点者が決定したのち、集計結果について意見交換を行った。

集計結果を確認したうえで合計点数に基づき、下記のとおり福島市に結果を報告することとした。

最優秀者 ヒアリング抽選番号 B 受付番号2 NEC ネットズエスアイ(株) 福島営業所

次点者 ヒアリング抽選番号 A 受付番号1 (株)ゼネラル 東北情報通信ネットワーク営業部

【全体講評】

ヒアリングを要請した 2 者とも、本市の高機能消防指令センターの現状を踏まえて、提案していたが、特定テーマごとの技術提案にそれぞれ一長一短があり、僅差の結果となった。

特に、「テーマ1 システム強化」に関しては、高所カメラ等の先進機器やクラウドの活用について両者ともに特徴のある提案があった。また、今後進展が見込まれる AI 技術について、両者から提案があったものの、現時点では開発途上の部分が多く、実現性や活用方法といった点でそれぞれ評価が分かれた。

次に、「テーマ5 安定稼働」に関しては、保守のスケジュールや機器の更新費用の部分で両者の提案に差異があり、要請テーマの理解度が問われる形となった。

その他、「テーマ2 移設」に関しては、両者ともに十分な実績があり、データ移行も含め不安要素は感じられなかったが、「テーマ3 業務効率化」、「テーマ4 BCP」も含め、システム強化に関連する部分であり、今後長期間の運用を考慮した場合の、システムの拡張性やセキュリティ面なども含む、将来性や安全性が評価に影響する形となった。

今後は、最優秀者の技術提案を基に慎重に協議を重ね、強固で利便性の高い高機能消防指令センターを構築するとともに、市民サービスの向上が図られることを期待するものである。

最後に、応募された2者には、本プロポーザルの趣旨をご理解いただき、指令システムに関する専門的な知見と本市の抱える課題を前提として、真摯な提案をいただいたことに、深く感謝を申し上げ、講評とする。

令和8年8月17日

高機能消防指令センター整備・保守運用事業者選定プロポーザル審査委員会

【各提案に関する講評】

○最優秀者

ヒアリング番号B（受付番号2）

技術提案書に基づき、重点ポイントを強調して説明がなされた。

特にシステムの強化に関する提案では、今後の研究開発の意欲や方針が明確に示され、119番受付時の操作性や今後ますます進展が見込まれる AI の活用という点について、クラウド利用やセキュリティ面の安全性も含めた将来の拡張性が高く評価された。システム強化に伴い、タブレット端末の活用や文字起こし機能を取り入れるなど、職員の業務負担の軽減が期待されるほか、BCP 対策としてハード面ソフト面の保守拠点が市内にあることも強みである。

一方で、安定稼働という点では、市からの要望への理解度に疑問があり、保守管理に未定の部分や、機器の更新費用については不安が残る。

懸念点については慎重に協議する必要があるが、今後12年間の長期運用を考慮した結果、総合的に最も高い評価となった。

○次点者

ヒアリング番号A（受付番号1）

技術提案書全体を通して、映像や音声を交え、提案者から丁寧な説明がなされ、明解であったことが評価できる。

移設や安定稼働という点で、市の実情を十分に理解したうえで提案されており、今後必要とされる機器やコスト面のイメージがしやすいという点が高く評価された。

一方で、システム強化に関しては、新規性のある提案や会社独自の提案がやや乏しく、システムの将来性、拡張性という部分の強みが感じられなかった。また、AI技術や文字起こし機能の活用についての提案があり評価できる部分がある反面、クラウド利用やセキュリティ面の安全性や理解度について疑問が残る。

移設や将来的にかかるコストが見通せるという点は高く評価できるが、消防指令システムとしての魅力や将来像に課題が残る結果となった。